

広里地区の調査解析状況及び試験的事業の内容案

1．調査・解析の状況（資料4：調査関連資料参照）

広里地区においてこれまで行った調査の結果、主として次の事柄が判明した。

（1）ハンノキ林

- ・1945年から1999年までの複数の航空写真によりハンノキ林の拡大を確認。

（2）土質

- ・泥炭層の厚さは1.5 m程度。農地跡地では泥炭層の上に有機質土層が堆積。
また旧雪裡川沿いには砂質土層が堆積。

（3）地下水位

- ・旧雪裡川下流の河川水位やその付近の農地跡地の地下水位は、潮汐の影響を受けている。
- ・地下水位は、中央部のハンノキ林部分がお椀状に高く、旧雪裡川に向けて低くなる。
- ・地表面と地下水位の差は、農地跡地部分で特に大きく、乾燥化が進んでいる。
- ・明渠排水路には、部分的に地下水位を下げる働きが残っている。

（4）埋土種子

- ・農地跡地土壌の埋土種子の発芽実験では、湿原植物の発芽は多く見られなかった。

（5）植物群落と立地環境

- ・調査ポイントの主成分解析の結果、農地跡地部分と湿原植生部分では、地表面水位などいくつかの主成分の違いが、その立地に大きく関係していることを確認。
- ・土壌水水質測定の結果、農地跡地では過去の施肥や土壌改良剤が原因と考えられる影響を確認。

（6）タンチョウ

- ・広里地区でタンチョウが1番^{つがい}営巣・繁殖。6，7月には南側の農地跡地を餌場として利用していたが、8月以降は北側に移動。

（7）キタサンショウウオ

- ・いくつかの個体を発見。年度内に行動調査等を実施予定。

2．農地跡地における試験的事業の内容（案）

上記調査結果を踏まえた今年度の試験的事業として、次の内容が考えられ

る。

なお、今年度の事業は、旧雪裡川の水位を現状レベルと設定し、この条件下で可能かつ今後の本格的再生事業の実施に向け、その手法検討上有効と考えられる試験的施工（事業）を行う。

（１）再生サイト

- ・再生サイトは、Ｂラインの農地跡地付近に設定する（別添図面参照）。

（２）リファレンスサイト（標準区）

- ・リファレンスサイトは、イワノガリヤス - ヨシ群落のうち比較的条件が安定しているＥライン付近に設定する（別添図面参照）。

（３）試験的事业

- ・再生サイトでは、約 1 ha の区域の中で、以下の観点から異なる手法により施工する実験区（5 × 5 m 程度）を設け、湿原の再生状況を比較する。

表土（有機質土壌）のみの剥ぎ取り

地下水位レベルまでの土壌の剥ぎ取り（数十 cm から 1 m 程度）

表土を剥ぎ取った箇所に遮水区を設け少量の水を供給し、一定の地下水位レベルを確保

- * ~ それぞれについて、ヨシ、イワノガリヤス等を播種する場合としない場合の両方を実験施工。

- * 実験区の数、30（3 パターン × 2（播種の有無） × 5（同一パターンの繰り返し））程度を予定。これらを約 1 ha の再生サイト内に設置。

- ・明渠排水路の一部埋め戻し等により、地下水位の上昇とその影響について把握するための実験を行うことを検討。

（４）付帯工事

- ・広里地区全体及び再生サイトのモニタリング及び監視を行うためのカメラの設置を検討。

３．ハンノキ林の追加調査（案）

- ・航空写真による年代別樹高解析、レーザープロファイラ分析によるバイオマス量の解析、年輪調査等により、再生事業におけるハンノキ林の取扱いを引き続き検討。
- ・ミズゴケが生育する部分を中心にハンノキを小面積（5 × 5 m 程度、数カ所）実験的に除去し、ミズゴケ群落等へ与える効果、影響を測定。